

島根県出雲市佐田町大呂「無上泉」



無^む上^{じょう}泉^{せん}

昔から地区の人たちの生活用水として利用されてきたこの水は、すぐ上の山の岩肌から湧水する泉で、四季を通じて日量千トンもの豊富な湧出量です。水温も年間を通じ十五度前後と変化が少なく、いわゆる「夏涼しく冬暖かい」という山水の特徴を持っています。

水脈もなく突然岩の中から水を噴きだしていることから、昔から人はこの泉を「がしら(上)無しの水」又は、この上も無い良い水と、味を込めて「無上泉」と呼んでいました。まだ野猿もこの水を飲んでたと伝えられることから、「猿渡りの水」とも呼ばれています。古くからこの地を経由して、安芸備後の国へ旅する人は、必ずこの無上泉の水を飲んで、満ちを満したといわれています。

現在簡易水道の水源として利用されています。多くの町民がこの良水の恩恵に浴しています。

(島根の名水100選)